

株主メモ

事業年度 4月1日から3月31日まで

期末配当金
受領株主確定日 3月31日

中間配当金
受領株主確定日 9月30日

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel. 0120-094-777 (通話料無料)

公告方法 電子公告
ホームページ: <http://www.soft99.co.jp/ir/koukoku.html>
電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載いたします。
※ 当社の貸借対照表、損益計算書はEDINET (金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム)にて開示しております。

単元株式数 100株

上場金融商品取引所 株式会社東京証券取引所市場第二部

インターネットホームページ <http://www.soft99.co.jp>

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関 (証券会社等) で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人 (三菱UFJ信託銀行) ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関 (三菱UFJ信託銀行) にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行本店及び全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店及び全国各支店でお支払いいたします。



第57期 中間報告書

平成22年4月1日 ▶ 平成22年9月30日

ソフト99コーポレーション

SOFT99は、クルマ・住まい・暮らしのすべてのシーンで「キレイをキープする企業」を目指して前進し続けます

代表取締役社長 渡辺 泰



株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第57期中間報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

中期経営計画「Spiral Up“NEXT”」も、本年で最終年度を迎えました。当社グループは、「新しいこと」へのチャレンジを通じ、お客様へ付加価値の高い創造性のある製品・サービスの提供に向けて取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間におきましては、株式市場の低迷により投資有価証券評価損を特別損失として計上したものの、売上高、営業利益そして経常利益においては、グループ各社において前向きに営業活動に取り組んだ結果、前年同期を上回る結果となりました。

当社グループは、今期より事業セグメントを一新し、「ファインケミカル」「ポーラスマテリアル」「サービス」そして「不動産関連」という新たな4つの事業セグメントでスタートしております。

当社を中心とするファインケミカル事業においては、引き続き個人消費が低迷する環境の下、営業現場では「ライフスタイル提案型」や「問題解決型」の売り場提案を行うとともに、業務用製品をはじめとする高付加価値製品の販売へのシフトもすすめることで、お客様に新たな価値を提供しております。

また、「エコカー補助金」の期限切れの影響による新車販売の落ち込み等、今後のクルマをとりまく環境は不透明ではありますが、当社グループは常に環境の変化を先取りし、「新しいこと」へのチャレンジを続けながら、クルマ・住まい・暮らしのすべてのシーンで「キレイをキープする企業」を目指し、お客様にとって「価値ある」製品・サービスの提供を続けることで企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後ともご支援とご協力を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

平成22年12月

売上高	営業利益
10,649 百万円	1,079 百万円
前年同期比 6.0% 増	前年同期比 52.3% 増
経常利益	四半期純利益
1,171 百万円	295 百万円
前年同期比 45.9% 増	前年同期比 33.9% 減

連結業績概況

連結売上高については計画通りに推移し、前年同期を上回る結果となりました。

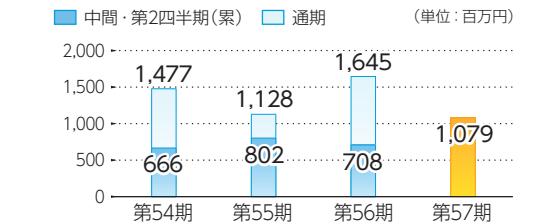
利益面については、ファインケミカル事業部門において、業務用製品をはじめとする高付加価値製品の販売へのシフトが進んだこと、ポーラスマテリアル事業部門において市況が回復し受注が増加したこと、そしてサービス事業部門において、オートサービス事業の新規取引先の開拓活動や自動車整備・钣金事業の入庫が順調に推移したこと等により、営業利益、経常利益が前年同期及び期初予想を上回る結果となりました。

四半期純利益については、株式市場の低迷により投資有価証券評価損を特別損失として計上したこと等により、前年同期を下回る結果となりました。

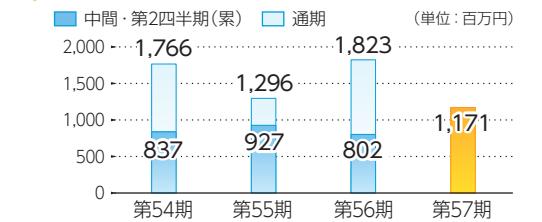
売上高



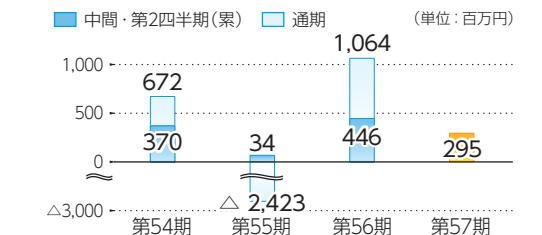
営業利益



経常利益



四半期(当期)純利益(△純損失)



※第54期は中間(当期)純利益です。

Fine Chemicals

ファインケミカル

カーケア

主にカー用品専門店やホームセンター等、一般消費者向けに各種カー用品の販売を行っております。ロングセラー商品「フクピカ」をはじめとするボディワックス類や、自動車ガラス用撥水剤「ガラコ」シリーズ、そして自動車補修剤「99工房」等を中心に販売しており、現在は新たな柱としてワイパー関連製品のラインナップ拡充と取り扱い店舗増加に取り組んでいます。

プロユース

自動車美装業者向け製品「Beautiful G'ZOX」シリーズを中心とした、自動車のボディコーティング関連製品の販売を行っています。またこの事業では、当社固有の「機能性薄膜による物体表面改質技術」をベースに、新用途への転用を目指し自動車用途の枠を超えた製品開発を行うとともに、製品とサービスの融合を目指した事業展開も行っています。

ホームケア

メガネ洗浄剤「メガネのシャンプー」や、シートタイプクリーナー「あっ!キレイ」シリーズ等、当社がカーケア用品の製品開発で培った技術を家庭生活の用途に転用した、各種製品の販売を行っております。

海外

当社海外事業室と、中国上海にある子会社「上海速特99化工有限公司」が互いに戦略を共有し合い、グローバル体制の強化に取り組むとともに、拡大する世界の自動車マーケットをチャンスと捉え、モータリゼーションの発展著しい中国やアジア新興国をはじめ、自動車販売が増加しているロシア等への販売を推進しています。

—セグメント売上高—
5,127百万円
—セグメント営業利益—
470百万円

売上高構成比
48.1%



▲一般消費者向けカーケア用品



▲業務用製品「Beautiful G'ZOX」シリーズ



▲家庭用製品

業績の概況

- 自動車用お手入れ製品の販売は、前半は好調に推移。夏場は記録的な猛暑の影響から販売が苦戦するも、積極的な売り場提案等の営業活動の結果、前年を上回る結果に。
- ガラス用お手入れ製品「ガラコ」の販売が、消費者向けキャンペーンが奏功し好調に推移。「ガラコワイパーパワー撥水」を中心としたワイパーの取り扱い店舗も増加。
- 業務用製品販売は、「エコカー補助金」期限切れ前の駆け込み需要の影響もあり、好調に推移。
- 家庭用製品の分野では、主力商品「メガネのシャンプー」の販売が苦戦。
- 海外向け販売は、中国やロシア向け輸出の増加により、好調に推移。

Porous Materials

ポーラスマテリアル

ポーラスマテリアル事業

子会社のアイオン株式会社が営んでいる、ファインケミカル事業と並ぶ当社グループ事業の柱の一つであるこの事業では、「精密多孔質体技術」を軸にした事業展開を行っております。抜群の吸水性・保水性を発揮する「PVA スポンジ」は、半導体やハードディスク等の精密電子部品の洗浄材及び吸水材として幅広く使用されており、世界でその性能を認められています。

また、そのソフトな肌触りから、産業資材の用途のみならず、スポーツタオルや化粧材といった一般生活用途としても長年愛用されています。

高品質商品の製造を行う工場

アイオン(株)関東工場(茨城県)では最先端電子業界の顧客からの高い品質要求に対応すべく、半導体工場と同等のクリーンルームに超純水の大容量洗浄装置、包装機及び高感度質量微量分析装置等を設置。洗浄材のより一層の高品質化を実現し、次世代型の半導体や液晶テレビのガラス基板の製造プロセスに通用する高品質商品の製造を行っております。



▲関東工場(茨城県)

—セグメント売上高—
2,308百万円
—セグメント営業利益—
320百万円

売上高構成比
21.7%



▲精密電子部品洗浄材「シグナスローラー」



▲気化熱利用の冷却グッズ「サモコクール」

業績の概況

産業資材部門

- 国内外の半導体・液晶業界の市況は、前半は回復基調で進むも、後半は停滞の傾向が見える中、売上高は前年を上回る結果に。

生活資材部門

- 自動車向け商品の販売が好調に推移。気化熱利用の冷却グッズ等の販売が夏場を中心に増加。
- 輸出では、円高の影響は受けたものの、アジア諸国向け出荷が好調に推移し前年を上回る売上高に。
- ポーラスマテリアル事業部門全体では、売上高は前年を上回ったことに加え、工場において固定費の削減等、各種合理化に引き続き取り組んだことで、営業利益も前年を上回る結果に。

Service

サービス

オートサービス事業

子会社の株式会社ソフト99オートサービスは、業界随一の高品質サービスを誇る整備・钣金や、車両リース・レンタル、そしてコーティング施工等を展開しています。この事業では、自動車のトータルサービスを通じた営業活動により、お客様に快適な自動車利用環境を提供しています。

自動車教習事業

子会社のアスモ株式会社が営んでおり、地域社会の交通安全に貢献できる教習所を目指し、普通自動車に加え、大型免許や自動二輪免許など、全車種免許の取り扱いを行っています。また、建設重機操作資格等の職業免許メニューを拡充するとともに、法人向け安全運転講習やエコドライブ講習などの各種研修も実施しています。

生活用品企画販売事業

子会社の株式会社くらし企画は、主に生活協同組合向けに、家庭用品の企画及び販売を行う生活用品企画販売事業を行っています。グループ内の連携を強化し、生協ルートのみならず、印刷媒体やインターネットなどを活用した他の通販への展開も進めています。

—セグメント売上高—
2,504百万円
—セグメント営業利益—
138百万円

売上高構成比
23.5%



▲オートサービス事業



▲自動車教習事業



▲生活用品企画販売事業

業績の概況

オートサービス事業

- 新規取引先の積極的な開拓活動に努め、順調に事業を拡大。
- 整備・钣金の受注も好調に推移し、作業の効率化にも取り組んだことで、前年を上回る売上高に。

自動車教習事業

- 幅広い教習内容を持つ強みを活かしながら積極的な営業活動を展開。その結果、普通免許や自動二輪免許の入所者が増加。
- 安全運転講習やエコドライブ講習等の企業向け研修の受注も順調に推移し、自動車教習事業全体では前年を上回る売上高に。

生活用品企画販売事業

- 利益率の悪い商品の取り扱いを中止する等、事業の効率化に取り組んだことで、前年と比較して減収とはなったものの、前年並みの利益は確保。

※第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

Real Estate

不動産関連

不動産賃貸事業

当社の保有する不動産を有効活用するため、主に大阪本社ビルや東京支店のビルオフィスの賃貸を行っております。

温浴事業

子会社のアスモ株式会社が、当社の保有する不動産の有効活用の一環として、地域の暮らしに役立つ、「街のオアシス」となるような温浴施設づくりを目指しています。近隣の農家と提携し、「地産地消」をテーマにした独自イベントの実施や個性的な飲食メニューの提供等、それぞれの店舗においてお客様満足度向上のための取り組みを行っています。

—セグメント売上高—
708百万円
—セグメント営業利益—
146百万円

売上高構成比
6.7%



▲大阪本社



▲東京支店



◀ 東大阪店



▲ 尼崎店



◀ 枚方店

業績の概況

不動産賃貸事業

- 当社の所有する主な物件で賃料収入が安定し、ほぼ前年並みの売上高に。

温浴事業

- 店舗数の減少により(前年同期は4店舗、今期は3店舗)、前年と比較して減収となる。
- 3店舗それぞれにおいて、周年祭等の独自イベントの実施や飲食メニューの改定等、お客様満足度向上の為に活動に取り組んだことで、3店舗における来客数は増加。

四半期連結貸借対照表 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 (22.9.30 現在)	前期末 (22.3.31 現在)
◆ 資産の部 ◆		
流動資産	15,214	15,406
現金及び預金	8,333	9,241
受取手形及び売掛金	3,171	2,792
有価証券	1,014	801
たな卸資産	2,128	2,032
その他	565	538
固定資産	26,827	26,320
有形固定資産	21,825	20,813
建物及び構築物	5,124	5,224
土地	15,338	14,392
その他	1,362	1,196
無形固定資産	154	171
のれん	3	7
その他	150	164
投資その他の資産	4,847	5,335
投資有価証券	4,134	4,143
その他	713	1,192
資産合計	42,041	41,727

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

科目	当第2四半期末 (22.9.30 現在)	前期末 (22.3.31 現在)
◆ 負債の部 ◆		
流動負債	2,844	2,958
支払手形及び買掛金	1,053	957
未払金及び未払費用	862	866
その他	928	1,133
固定負債	1,774	1,704
退職給付引当金	914	936
その他	859	767
負債合計	4,619	4,662
◆ 純資産の部 ◆		
株主資本	37,049	36,938
資本金	2,310	2,310
資本剰余金	3,116	3,116
利益剰余金	31,953	31,841
自己株式	△ 329	△ 329
評価・換算差額等	158	△ 81
その他有価証券評価差額金	12	△ 207
土地再評価差額金	110	91
為替換算調整勘定	34	35
少数株主持分	214	207
純資産合計	37,422	37,064
負債・純資産合計	42,041	41,727

四半期連結損益計算書 (要旨)

(単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (22.4.1 から 22.9.30 まで)	前第2四半期(累計) (21.4.1 から 21.9.30 まで)	前期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
売上高	10,649	10,050	19,965
売上原価	6,782	6,649	13,122
売上総利益	3,866	3,401	6,842
販売費及び一般管理費	2,787	2,692	5,196
営業利益	1,079	708	1,645
営業外収益	95	97	195
営業外費用	3	3	18
経常利益	1,171	802	1,823
特別利益	1	30	182
特別損失	421	26	132
税金等調整前四半期 (当期)純利益	751	806	1,873
法人税、住民税及び事業税	463	377	828
法人税等調整額	△ 17	△ 20	△ 32
少数株主利益(控除)	10	3	13
四半期(当期)純利益	295	446	1,064

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当第2四半期(累計) (22.4.1 から 22.9.30 まで)	前第2四半期(累計) (21.4.1 から 21.9.30 まで)	前期 (21.4.1 から 22.3.31 まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	358	1,063	2,876
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 1,314	△ 156	△ 114
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 154	△ 189	△ 319
現金及び現金同等 物に係る換算差額	△ 0	3	1
現金及び現金同等 物の増減額(△は 減少)	△ 1,110	720	2,443
現金及び現金同等 物の期首残高	9,016	6,572	6,572
現金及び現金同等 物の四半期末(期 末)残高	7,905	7,292	9,016

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (平成22年9月30日現在)

株式の総数

発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	22,274,688株

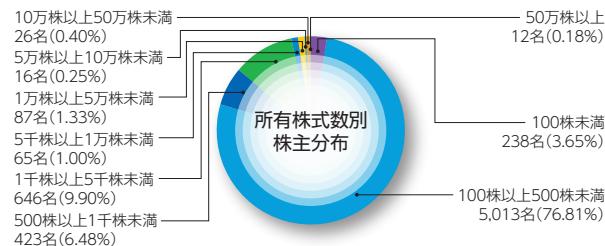
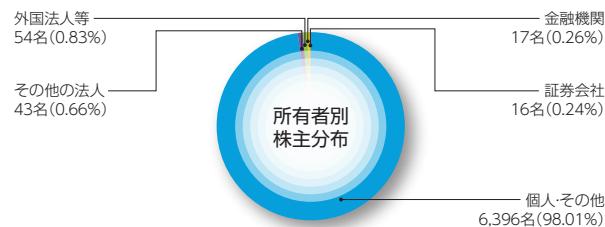
株主数

当第2四半期末株主数	6,526名
------------	--------

大株主

株主名	持株数	議決権比率
サントレード株式会社	3,246,528株	15.0%
田中 秀明	1,496,976	6.9
鈴木 幹子	1,492,656	6.9
立花証券株式会社	918,300	4.2
株式会社三菱東京UFJ銀行	799,200	3.6
株式会社みずほ銀行	709,600	3.2
田中 信	603,720	2.7
佐藤 佐世子	594,192	2.7
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	560,500	2.5
田中 明三	552,424	2.5

上記のほか、自己株式が660,891株ございます。



会社の概要 (平成22年9月30日現在)

商号	株式会社ソフト99コーポレーション
設立	昭和29年10月28日
本社	大阪市中央区谷町二丁目6番5号
資本金	2,310,056,000円
従業員数	192名
事業内容	自動車用化学製品の製造及び販売

役員 (平成22年9月30日現在)

代表取締役社長	渡 辺 泰
取締役会長	田 中 明 三
常務取締役	平 野 泰 彦
常務取締役	西 川 保
取締役	辻 平 春 幸
取締役	奥 埜 佳 秀
取締役	田 中 秀 明
取締役	田 中 信
常勤監査役	赤 星 学
監査役	平 井 康 博
監査役	柏 岡 勲
監査役	岸 田 靖 雄

ソフト99グループの
環境への取り組み

当社グループでは、環境に配慮した企業活動を通じて、美しい地球を次の世代に残せるよう、地球環境の保全に「できることからひとつずつ」取り組んでいます。ここでは当社グループの取り組みの一部をご紹介します。

工場での取り組み ～LED照明の導入～



▲三田工場

当社は本年9月、三田工場（兵庫県）に設置されているほぼすべての水銀灯をLEDタイプの照明に切り替えました。

LED照明は低消費電力と長寿命が特徴

ですが、水銀灯に比べて二酸化炭素の排出量が少ないことや、水銀を含まないため有害な廃棄物を出さないことから産業廃棄物の削減が可能になります。

このように当社は、オフィスや家庭に普及しつつあるLED照明をいち早く導入するなど、製造現場を中心に環境への取り組みを実践しています。



▲工場内のLED照明

製品開発の現場で

当社は常に、省資源・環境に配慮した製品の開発に取り組んでおります。樹脂の使用量を抑え、ゴミ少量化・分別回収に完全対応させた容器の開発や、分別作業を容易にしたガス抜きキャップなど、当社はこれまで独自の開発力をもって環境問題に取り組んでまいりました。今年8月発売の新製品「ホイール貼るだけシート」は、「貼る塗料」をコンセプトに、溶剤の噴出を伴うスプレー塗装が不要な自動車補修を実現させ、クルマにも地球環境にも優しい製品となっています。



▲ガス抜きキャップ



▲ホイール貼るだけシート

グループのクルマ社会への取り組み



▲講習風景

当社子会社のアスモ（株）が運営する尼崎ドライビングスクール（兵庫県）は、平成20年10月に、交通エコロジー・モビリティ財団より全国初の「エコドライブ講習」の講習機関として認定されて以降、多くの企業研修の実施やドライブレコーダーを用いた運行管理を通じて、地球環境に配慮した自動車利用の促進活動を行っております。また当社においても、クルマに関わる企業として、従業員へのエコドライブ講習の実施を通じて、地球環境に優しい運転を実践しております。